

臨床雑誌 内科

Next Issue

2024年3月号
(Vol.133 No.3)

[特集]

在宅医療は何のために存在するのか

これからの在宅医療を見据えて

企画：佐々木 淳

[Chapter 1] 在宅医療のアウトカム/在宅医療は何のために存在するのか

なぜ在宅医療が必要なのか

佐々木 淳

[Chapter 2] 医学モデルとしての在宅医療

在宅医療における多様な視点の必要性

—日々の健康管理と医学モデルの適用

低栄養・摂食嚥下障害・誤嚥性肺炎

認知症

神経難病

在宅医療とケアにおける感染対策の考え方

緩和ケア

小児

田上佑輔
大浦 誠
内田直樹
辻 雄太
高山義浩
安達昌子
戸谷 剛

[Chapter 3] 生活モデルとしての在宅医療：本人の納得と満足(残された家族なども含め)

積極的な社会参加に至った ALS 患者

—国際生活機能分類(ICF)モデルに基づいた考察

Column：ALS とともに充実した日々を過ごす僕の在宅生活

人生の最終段階における対話・コミュニケーションの技術

意思決定支援

江里口 誠
中野玄三
岡山容子
川口篤也

[Chapter 4] フェイズごとのポイントと在宅医療に求められる役割在宅医療のバリエーション

診療開始時

急変時

在宅(施設)での急性期治療

入院

退院

よりよい在宅看取りのために医療者が心得ること

施設における在宅医療(居宅における在宅医療との違い)

川淵奈三栄
井上淑恵
遠矢純一郎
近藤敬太
小坂鎮太郎
高添明日香
長瀬健彦

[Chapter 5] 在宅医療のバリエーション

かかりつけ医が始める在宅医療

在宅医療特化型

在宅療養支援病院での急性期支援型在宅医療

在宅医の時間外対応バックアップ

急性期在宅医療(hospital at home・在宅入院)

—2025 年問題を乗り越えるための新しい医療モデル

迫村泰成
内田貞輔
織田正道
中尾亮太
宮本雄気After
NextVol.133 No.4 | 患者さんからよく尋ねられる内科診療の Question
(企画：編集委員会)Vol.133 No.5 | 患者の将来を見据えた実践的糖尿病診療—脱“血糖屋さん”のススメ
(企画：白川 純)Vol.133 No.6 | 脳血管障害かもしれない！
(企画：板橋 亮)